根の上だより

No.4＜根の上を愛する会＞　2012.4.10

名古屋ＹＭＣＡ６０年史（吉村欣治著）に根の上キャンプ場の開設について次のように書かれています。『ＹＭＣＡは、日本のキャンプ事業の開拓者であった。既に増田健三は大正五年(1916)にキャンプを開始し、他方、東京ＹＭＣＡでは、大正十年（1921）日本ＹＭＣＡ同盟主事として、ジー・エス・パタソンが来朝し鈴木栄吉と共に「全人教育」を原理とする少年事業を発足させ、大正十一年（1922）中学生を対象としたキャンプを日光中禅寺湖で実施した。さらに大正十三年山中湖畔に、昭和七年野尻湖畔に広大な土地を求め、本格的な少年の長期キャンプを実施したのであった。名古屋ＹＭＣＡの若松夏期寮、高蔵寺クラブハウスもキャンプに対する深い関心と認識に基づいて設置されたものであった。（略）しかし、そのいづれもがＹＭＣＡ少年キャンプのめざす目的に十分かなうものではなかった。

さいわい新しいキャンプ設定のため、北米ＹＭＣＡ同盟から援助金が割り当てられ、キャンプ地を物色し、昭和二十七年（1952）岐阜県中津川市根の上高原を、ヘーグ、ロング同盟名誉主事、大津賀理事長、笠谷総主事、長松英一理事、その他が中津川市当局の案内で視察し、さらに再度踏査し、同年十一月、中津川市市岡訃介市長に中津川市手賀野字釜戸の土地の無償貸与方を申請し（昭和二十八年四月一日契約成立）同年十二月キャンプ建設を、五十周年記念事業の一つとして実施し、その費用に充てるため高蔵寺クラブハウスを売却することを決定し・・・・』『根の上キャンプでは少年たちが雑多な都会生活を離れて自然の環境の中で、自然に親しみ、自然を理解し、そのふところに抱かれて、共同生活を楽しみ、多くの友を発見し、新しい友情を育てていった。団体生活の中でスポーツ、レクリエーション活動に参加して、健康を増進し、自分の体力を強め、規律のある生活を通して、だらけやすい夏の生活を引き締める等、日常生活に役立つ、正しい習慣をつけさせていった。そこでは新しい興味が沸き、いろいろな技術、技能が体得されたばかりか、大自然の美しさの中で、聖書を学び、豊かな宗教的情操をはぐくみ、キリスト教生活態度を身につけ、新しい人生のスタートをきる者が多かった。』

また、少年事業について『少年こそ明日の時代をになう国家、世界の大きな希望である。キリスト教的人格と、キリスト教的社会の建設をめざし、キリスト教的生活態度を身につけ、世界市民としての望ましい成長を図り、将来のＹＭＣＡをになう人たちを生み出すために、また、リーダーシップをもった人たちを社会に送り出すために少年たちに力を注がれねばならない。少年は身体的、情緒的、知的、社会的に顕著な成長を遂げ、人間としてその人生に対する基本的な態度を形成する時期である。良い環境、目標、良い指導者、良い体験こそ重大である。』

『ＹＭＣＡの赤三角形の各辺が精神、知性、身体を示し、知性と身体は精神―霊性によって統一されていることを示すために逆三角形になっており、身体、知性、精神の根本的な統一、均斉、調和のとれた人間こそ全き人としてＹＭＣＡ のめざす人間像を端的に象徴したものである。』『それらの心身共に均斉のとれた人間が神と人とに愛せられるものでなければならない。神と人とに愛せられる人間こそ少年事業のめざす人間像である。』

名古屋ＹＭＣＡ根の上キャンプ場は先人たちの熱い思いの中から作られたことをあらためて感じます

根の上キャンプ場では 1989 年から 1995 年の間少年キャンプが行われず事実上閉鎖の状態でした。その間「根の上まつり」が年１回開かれ、1995 年「根の上を愛する会」が組織され、小規模の修理をしたりキャンプ場を最低限の維持をしてきました。

キャンプが「人を育ててきた」こと、それらの人たちの多くが名古屋ＹＭＣＡを支えてきたことを忘れないように、今は毎年春と秋に「根の上まつり」を開催しています。時代の変化と子どもたちを取り巻く環境の変化は昔のような少年キャンプを根の上で行うことは難しくなってきていると思います。

1983 年、名古屋ＹＭＣＡは日和田に新しいキャンプ場を開設し、子どものキャンプは日和田でおこなわれています。根の上の役割は終わったのでしょうか？日和田キャンプ場まで名古屋から約４時間、根の上ま

では１時間強です。子どものキャンプは日和田でおこなっても現役のスタッフ・リーダーのトレーニングには充分役にたつのではないでしょうか。

今のＹＭＣＡの財政状況では二つのキャンプ場は無駄でしょうか？日和田も根の上も施設は老朽化しています。施設の改善に資金を投入することができないのでしょうか？

根の上のキャンプ場には名古屋東海ワイズメンズクラブが 1987 年に厨房棟を、2007 年にトイレ棟を、2008 年にタカラキャビン（第５キャビンを改築）を寄贈し、「根の上まつり」や不定期に行われるプログラムに役立っています。

「根の上を愛する会」と名古屋東海ワイズメンズクラブは年間 6～10 回、キャンプ場の整備に「ワーク」をしています。

キャンプの教育的側面の評価は高いことは論をまちませんが経済的観点から無駄が多いと切ってしまうことはある面、合理的で簡単なことです。「コスト」というのは常に下げ圧力をもつものです。

「コスト」も大事であるがそうでない軸もないと教育というものは成り立ちません。利益が単なる差益をいうのか、ユースや社会全体にとっての大局的な利益を表すのか。今は数値化できないものは価値がないとされがちですが新しいものは無駄や遊び心の産物であることも多い。本来あるべき余裕や無駄が削られていくことを注意してほしい。

「根の上を愛する会」は皆さんの支えの中で今後もサポートメンバーを増やしながら根の上キャンプ場をまもっていくつもりでおります。

最後に「名古屋ＹＭＣＡ60 年史」から吉村さんの言葉を引用し、決意とします。

『ＹＭＣＡの運動はきわめて多様性をもつ。その多様性はますます広がってゆく。その多様性の中にある統一性こそ、ＹＭＣＡを導いてゆく核である。多様性に目を奪われてはならない。多様性を統一しているキリスト教的使命を絶えず見上げてゆこう。

目をあげて高きを見ようではないか。
たえず幻を描いて前に向かって歩もうではないか。
神は、すでに、私たちの歩みを照らし支えておられる。
日本のため、世界のため、神の国建設のため、
喜んで私たちの生命を、生活を捧げようではないか。』

今年も仲間に会える！

2012「春の根の上まつり」ご案内

例年、春の「根の上まつり」は「昭和の日」に開催しています。今年は 29 日が日曜日で 30 日が振り替え休日になり、根の上まつりは 30 日に開催です。

お間違えにならないようにお願いします。

ところで、折角の連休になったので、前の日 29 日から行きたいなと思っている皆さん、「根の上を愛する会」の浅野会長は、皆さんにとびきりのプレゼントを用意しています。

前日の 29 日には名古屋東海ワイズメンズクラブのメンバーがこの「根の上まつり」の準備のためにワークを兼ねてキャンプ場に入っています。

しかし、年をとったからキャンプ場では体にこたえるという皆さんのために根の上高原のロッジ「あかまんま」を全館貸し切りにしています。

来年の６月にワイズメンズクラブの西日本区大会を名古屋で開催することになり、各クラブから実行委員がでて準備がすすめられています。その委員の有志が集まり委員のチームワークを高めるために[とゆう口実で]一泊をして翌日の根の上まつりに参加することにしています。

同じＹＭＣＡに連なる仲間ですからどなたに限らずぜひとも前日からのご参加をお勧めします。

前日の参加希望のかたは浅野会長（モージュウ）まで問い合わせてください。

Ｅ－ｍａｉｌ

mojyu@mse.biglobe.ne.jp

「根の上だより」第４号：2012 年４月 10 日発行
「根の上を愛する会」会長　浅野猛雄
作成：八木武志

Camper will shine tonight,
Camper will shine.
Camper will shine tonight,
Camper will shine.
Camper will shine tonight,
Camper will shine.
When the sun goes down,
And moon comes up,
Camper will shine.